感動の一点

『雪の中の馬』
1974年　小川原　脩　画



雪の中に立つ一頭の馬。私たちは、馬の真後ろに立って、その姿を見つめています。臀部と尾が画面の手前に大きく描かれ、その奥には、こちらを振り返るような馬の横顔が見えます。脚はひざ下から雪に埋もれ、馬は深い雪の中に静かに佇んでいます。

小川原脩は、前年の1973（昭和48）年にも、ほぼ同じ構図で《雪の中の馬》を描きました。同じモチーフを繰り返しながらも、本作では、木立の手前に枯草を思わせる線を足すなど、背景の描写を加えました。さらに、茶色の絵の具の濃淡を用いて、より大胆に馬の肉付きを捉えています。

馬を横からみるのではなく、あえて馬の後ろに立ってみるような視点。かつて人の暮らしのすぐそばにいて、その姿をよく知る馬だったからこそ、後ろから捉えるという発想につながったのでしょう。こうした後ろ姿は馬だけのものではありません。1979（昭和54）年に始まるアジアへの旅の後には、水牛の後ろ姿も描いています。しなやかで丸々とした胴体が強調された水牛に対して、この馬の身体はどこか四角く、がっしりとしています。立派な骨格と筋肉を持つ、働く馬の力強さが感じられます。

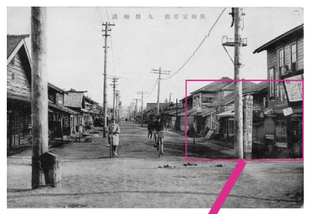
同じ馬を繰り返し描きながら、その姿を別の向きから見つめ直す。そこに、小川原脩の馬の描き方の面白さがあるのです。

文:沼田　絵美（小川原脩記念美術館　副館長）

ふるさと探訪

写真に見る昔々の倶知安
この場所はどこ？－絵はがきから探る「九号線通」

522回





右の写真は最近、町民の方から寄贈された、1920（大正9）年から昭和初めごろに撮影されたとみられる絵はがきです。上には「倶知安市街　九号線通」とあります。「九号線通」は町での呼び名で、当時の国道4号線、現在の国道5号線にあたります。しかし、街並みは今とはまったく違います。どこを撮影したのでしょうか。写真から手がかりを探します。

右側の店先にある標柱には、左が「準地方費道　札幌倶知安線　東倶知安」、右が「国道四号線　小澤・札幌」とあります。東倶知安は現在の京極町です。左が京極方面なら、北から南を向いて撮影したことになります。しかし、「小澤・札幌」の方向は現在の国道5号線とは合いません。

実はこの国道は1965（昭和40）年まで、北3条・4条の交差点で旭ケ丘公園方向へ曲がり、二世古酒造の前で北に折れて倶知安峠へ続いていました。さらに、標柱のある店の「ヤマサン」の屋号と、2軒隣の「鮮魚」の看板は、風土館に残る昭和初めの市街図と一致します。

これらから、現在の国道5号線北4条付近からニセコ方向を撮影したと推定できます。

文:紺谷　貴之（倶知安風土館　学芸補助員）

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館　☎21-4141
観覧料：一　般　500円[400円]
高校生　300円[200円]
小中学生　100円[50円]
倶知安風土館　☎22-6631
観覧料：一　般　200円[100円]
高校生以下、美術館観覧者無料
※年間パスポート500円
※[　]内は10名以上の団体料金
開館時間は9時～17時(最終入館16時30分)

10月の休館日　毎週火曜日
美術館のみ1日(休)、2日(金)（展示替え）
風土館のみ21日(休)、23日(金)（展示替え）

展覧会のお知らせ

■第1展示室
第68回麓彩会展
会期：10月3日（土）～令和9年1月17日（日）

■第2展示室
小川原脩と麓彩会－はじまりの頃
麓彩会創設に関わりのある、野本醇、因藤壽、穂井田日出麿、坂口清一、徳丸滋、谷口一芳の作品を紹介します。
会期：10月3日（土）～令和9年1月17日（日）

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン
麓彩会展オープニングセレモニー＆アーティストトーク
第68回麓彩会展のオープニングセレモニーの後、展覧会場にて、出品作家の皆さんに、作品について伺います。
日時：10月3日（土）10時～11時
会場：第1展示室（無料・予約不要）

■造形活動ワークショップ
とも先生とみる・かんじる・えがく　じかん
「コロコロえがく　自分だけのモンスター」
日時：10月18日（日）　①10時30分～12時　②13時30分～15時
会場：ロビー（各回6組・無料）
対象：小学生とその家族（1組3名まで）
講師：中谷知美さん（倶知安小学校主幹教諭）
申込：10月1日（木）から右の二次元コードまたは電話（☎21-4141）で受付

倶知安風土館のお知らせ

■ふるさと探訪（講演会）
「古倶知安湖をめぐる」
日時：10月11日（日）11時～12時　参加費：無料
会場：倶知安風土館2階
講師：嵯峨山積さん（北海道立総合地質学研究センター）
※午後の現地観察は「ふるさと探訪（観察会）」にお申し込みの方のみ参加できます。

■寺子屋ミュージアム
「昔の炊飯器を使おう！－蒸しかまど－」
日時：10月17日（土）13時半～16時半　定員：10名　参加費：無料
場所：倶知安風土館※要予約（10日まで）　講師：紺谷貴之（風土館職員）
「実りの秋！木の実を探しに行ってみよう！」
日時：10月31日（土）13時半～16時半　定員：10名　参加費：無料
場所：倶知安風土館※要予約（24日まで）　講師：小田桐亮（風土館職員）
申込方法：右の二次元コードまたは倶知安風土館☎22-6631まで

■文化の日（11月3日）は美術館・風土館無料開放
美術館では、コンクールの表彰式や制作イベントも開催します。
○ふるさとを描こう絵画コンクール表彰式10時～　○友の会「フェルトワークショップ」11時～（20名※予約不要）
○友の会「ポストカード・ペーパークラフト配布」終日

麓彩会展

小川原脩記念美術館では10月3日から来年1月17日まで「第68回麓彩会展」が開催されます。

以前にも少し触れましたが、麓彩会は1958年（昭和33年）に小川原脩をはじめとした倶知安に繋がりのある8人の作家により創設され、現在は倶知安、後志にとどまらず全道各地で活躍されている作家さんの作品が出展されます。

今回は麓彩会展にあわせて「小川原脩と麓彩会－はじまりの頃」が開催され、小川原脩、野本醇、因藤壽、穂井田日出麿、坂口清一、徳丸滋、谷口一芳といった麓彩会の大御所の作品が展示されます。当館でもこのような機会はなかなかありませんので、貴重な収蔵作品が観られるチャンスです。

麓彩会展のはじまりと現在、この展覧会を支えてきた作家さんの個性ある作品をお楽しみください。

館　長　髙橋（たかはし）淳之（あつし）